

住民参加の新しい形態を

三井幹人 議員



問：三井幹人議員

パノラマの営業状態は。

答：矢嶋町長

8月末で前年比8%減。

職員提案の11部門からなる新規プロジェクトをスタートした。

問

公共施設の耐震診断は。

答：小松教育長

富士見小で今年実施する。落合小と本郷小を平成16年度から実施する予定。その他は町の全体計画の中で行いたい。

問

少子化対策として産業活性化があるが。

答：町長

次世代支援対策法が7月に成立し、国・地方・企業・公共団体などは義務づけ

られたので有機的に対策をたてる。インフラ整備では、光ファイバー網計画を進めており、町内約40箇所にターミナルを置く予定。優遇税制は考えていない。

問

異常気象の農業・観光への影響は。

答：町長

水稲は5〜7日の遅れ。平成5年とは異なり、全滅ではない。花卉類は出荷量は同じだが値段が落ちた。農産物は申告があったら対応する。いもち病防除は、時期がずれてしまい、効果がなかった。屋外観光が落ち込んだ。

問

住民参画の新しい形態を。

答：町長

かつて審議会・委員会に各界の代表者を選んだが、行政の要求が多様化したためニーズの把握ができなかった。自由な形で住民参加によるほうがよい。塚平



マウンテンバイクを楽しむ人達の車がギッシリ

・パノラマなどで実施している。

問

任意協議会の新市建設計画案が出たが、町の要求が通ったか。地域局の役割・権限・分権型の寿命は。

答：町長

約100項目のすり合わせをし、ほぼ町の要求が通った。とくに分権型に活路を見出した。いつまで地域局を存続させるか不明だが、職員が地域局にすることが大事で、現在のほとんどが残ることになる。庁舎は最後まで残す。局が形だけのものになるなら異を唱える。

財政計画などは、今後できる予定の法定合併協議会で具体的に決定される。今は具体策はない。

町の50年の歩みを映像記録に

五味 滋 議員



問：五味 滋議員

我が故郷富士見町50年の歩みについて、映像記録を企画として立ち上げ、町の文化事業の一環として残す考えは。合併がさげばれる中、ぜひとも必要なことと思われるが。

答：矢嶋町長

作ることにしてお受けする。どういうふうにするかについては、これから段取りをさせていただいた



昭和30年代、池袋区季節保育所の様子（武藤盛氏提供）

い。まず町の庁舎内でどんなふうにするか検討し、町内に呼びかけ、沢山の人の協力をしてもらわなければならない。

問

せっかく作るのだからプロの力を借りて、20年後にも評価の頂けるものを作るべきだ。記録なので、正確にきちんとしたものを作って欲しい。

答：町長

おっしゃる通りだと受け止めている。

